

〔教育講演〕

小児歯科における臨床と病理

10月15日午後3時

九州歯科大学小児歯科学講座

教授 木村光孝

〔講師略歴〕

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| S. 41. 3 | 九州歯科大学 | 卒業 |
| S. 41. 6 | 九州歯科大学 | 保存学教室助手 |
| S. 48. 7 | | 歯学博士 |
| S. 48. 10 | 九州歯科大学 | 保存学教室講師 |
| S. 51. 6 | 九州歯科大学 | 保存学教室助教授 |
| S. 54. 5 | 九州歯科大学 | 教授 |
| S. 56. 7 | カリフォルニア大学 | 留学 |

〔要旨〕

乳幼児期から学童期にかけての小児の顎口腔系は全身的な発育と同様にめざましい成長発育過程にある。解剖学的、組織学的にもう蝕罹患性の高い乳歯を健全な状態で永久歯と交換させることが小児の心身発育にいかに関係重要であるかということが社会的にもアピールされてきている。しかし、日常の小児歯科臨床の現場ではこういった社会的な予防意識の高まりにもかかわらず、すでにう蝕に罹患し、歯髄炎をも引き起こして来院する患者が後を絶たない。可能な限り正常な歯牙交換を行わせるためにも歯髄の保存が望まれ、とくに乳歯は歯根吸収という生理的特徴を有しているため、我々臨床医は歯髄処置に際して臨床上のテクニックばかりでなく、裏付けとしての Basic Science を熟知しておかなければならない。

そこで今回は臨床家にとっては日常茶飯事となっている生活歯の歯冠修復を改めて見直し、Cavity Preparation から Pulp Amputation までを臨床的テクニックをたどりながら、歯髄組織変化の病理組織学的考察を行ない、基礎的な方向からのアプローチを試みてみようと思う。